

愛知県経済の現状と見通し<2021年10月>

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<p><b>持ち直しの動きが鈍化している</b></p> <p>消費の低迷が続くほか、企業の生産活動や輸出も主力の自動車産業を中心に弱さがみられており、県内景気は持ち直しが鈍化している。</p>		
家計部門	個人消費	<p><b>弱い動き</b></p> <p>百貨店販売額は2か月ぶりの前年比減少</p>		
	雇用	<p><b>持ち直しの動きがみられる</b></p> <p>有効求人倍率は前月から横這い</p>		
	住宅投資	<p><b>持ち直しの動きがみられる</b></p> <p>住宅着工戸数は4か月連続の前年比増加</p>		
企業部門	企業活動	<p><b>足踏み</b></p> <p>鉱工業生産指数は6か月連続の前年比上昇</p>		
	企業倒産	<p><b>小康状態</b></p> <p>企業倒産件数は前年同月から横ばい</p>		
海外部門	輸出	<p><b>回復が鈍化</b></p> <p>名古屋港通関輸出金額は7か月ぶりの前年比減少</p>		
公共部門	公共投資	<p><b>持ち直しの動きがみられる</b></p> <p>公共工事請負金額は4か月ぶりの前年比減少</p>		

当面の見通し	<p><b>新型コロナの影響が続くなか、一時的に景気の下押し圧力が強まる見通し</b></p> <p>感染者数の減少などを受け、消費は一定程度持ち直すとみられるものの、自動車生産を中心とした生産や輸出の回復鈍化が続くなか、一時的に景気の下押し圧力が強まる見通し。</p>
--------	---

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、: 上方修正、: 据え置き、: 下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀: 晴、☀|☁: 晴～曇、☁: 曇、☁|☔: 曇～雨、☔: 雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 古川
	電話: 059-354-7102 Mail: 33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	弱い動き	基調判断の前月との比較	➡
		水準評価	☁️☔

◀️現状▶️

- 個人消費は、弱い動き。
- 個人消費の動向を支出側からみると、8月の消費支出(勤労者世帯、名古屋市)は、前年比▲9.2%と2か月連続の減少(図表1)。自動車等関係費などの交通・通信(同+20.2%)が増加したものの、住居(同▲22.6%)や教育(同▲62.0%)など幅広い品目が減少。
- 個人消費の動向を販売側からみると、8月の百貨店販売額は、前年比▲1.0%と2か月ぶりの減少。外出機会の減少に伴い、衣料品の販売が減少したほか、飲食料品も下押しに寄与。スーパー販売額は、同▲4.0%と2か月ぶりの減少。長雨などの影響により、清涼飲料水やアイスクリームなど季節商材の販売が減少(図表2)。
- 9月の新車乗用車販売台数(含む軽乗用車)は、前年比▲36.9%と3か月連続の減少(図表3)。内訳をみると、普通車(同▲29.2%)が12か月ぶり、小型車(同▲45.9%)、軽乗用車(同▲39.9%)が4か月連続でそれぞれ減少。半導体などの部品不足を背景とした減産による納車遅れが影響。

◀️見通し▶️

- 地域経済分析システム「V-RESAS」をみると、執筆時点で最新データである10月第2週の移動人口は新型コロナ前の2019年同週比▲5.9%(9月第2週:同▲17.9%)、飲食店情報閲覧数は同▲36.9%(9月第2週:同▲57.2%)と減少が続いたものの、減少幅は縮小。新型コロナ感染者数の減少や、飲食店への時短要請の全面解除を受け、サービス関連を中心に消費は持ち直しに転じる見込み。

◆8月 勤労者世帯・消費支出(名古屋市)

- 前年比▲9.2%(2か月連続の減少)
- ・教育:前年比▲62.0%(4か月連続の減少)
- ・住居:前年比▲22.6%(3か月ぶりの減少)

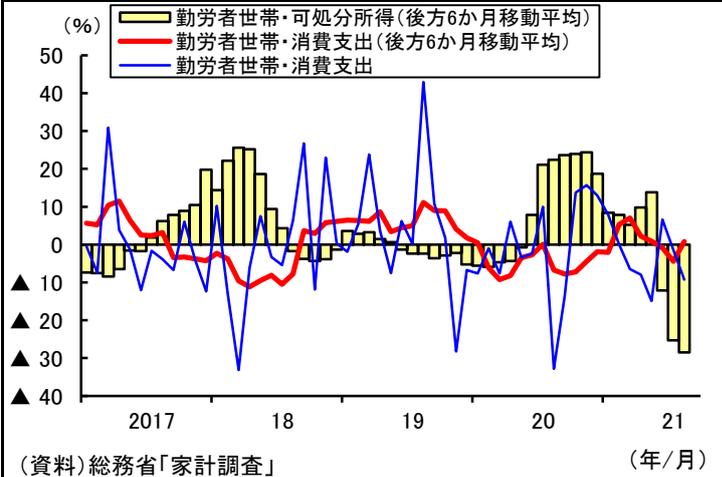
◆8月 大型小売店販売額

- ・百貨店:前年比▲1.0%(2か月ぶりの減少)
- ・スーパー:前年比▲4.0%(2か月ぶりの減少)

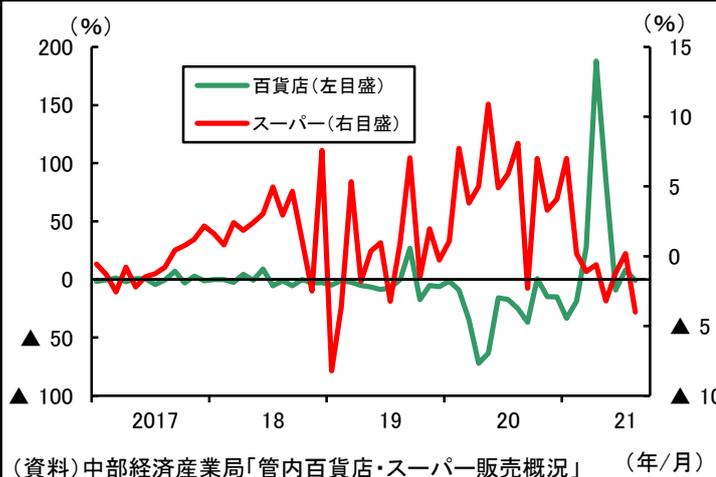
◆9月 新車乗用車販売台数(含む軽乗用車)

- 20,319台 前年比▲36.9%(3か月連続の減少)
- ・普通車 9,895台 前年比▲29.2%(12か月ぶりの減少)

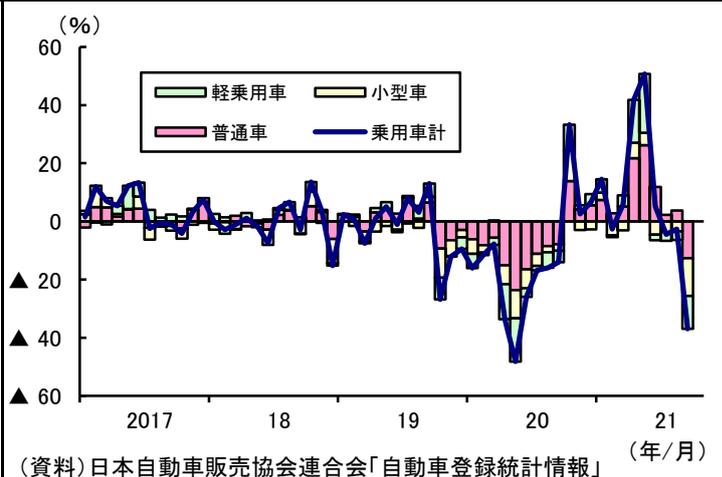
図表1 名古屋市・消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



<b>雇用</b>	<b>持ち直しの動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁️ 📈
<p>◀️<b>《現状》</b></p> <p>○雇用は、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○8月の雇用環境をみると、有効求人倍率は1.26倍(前月差±0.0ポイント)と前月から横這い。新規求人倍率は2.30倍(同▲0.1ポイント)と2か月ぶりの低下(図表4)。新規求人数は前年比+11.8%と5か月連続の増加。業種別にみると、宿泊・飲食サービス業(同▲17.0%)が減少したものの、製造業(同+36.2%)を中心に幅広い業種が増加。</p> <p>◀️<b>《見通し》</b></p> <p>○先行きは、業績回復が続く製造業に加え、時短営業など活動制限が解除された飲食業なども持ち直しに転じる見込み。もっとも、感染再拡大への懸念が残るなか、当面、雇用環境の回復のペースは緩やかにとどまる見通し。</p>			
<p>◆<b>8月 求人倍率(季節調整値)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有効求人倍率:1.26倍 前月差±0.0ポイント(横這い)</li> <li>新規求人倍率:2.30倍 前月差▲0.1ポイント(2か月ぶりの低下)</li> </ul> <p>◆<b>8月 新規求人数(原数値)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年比 +11.8%(5か月連続の増加)</li> </ul>		<p style="text-align: center;"><b>図表4 有効・新規求人倍率&lt;季節調整値&gt;</b></p> <p style="text-align: center;">(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」</p>	

<b>住宅投資</b>	<b>持ち直しの動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁️ 📈
<p>◀️<b>《現状》</b></p> <p>○住宅投資は、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○8月の住宅着工戸数は、前年比+22.5%と4か月連続の増加(図表5)。利用関係別にみると、持家(同+9.9%)が5か月連続、貸家(同+20.9%)が7か月連続、分譲マンション(同+66.1%)や分譲一戸建て(同+40.5%)の分譲住宅(同+52.1%)が2か月連続でそれぞれ増加。</p> <p>◀️<b>《見通し》</b></p> <p>○景気の持ち直しに伴う住宅取得意欲の向上により、住宅投資は回復基調が続く見込み。在宅勤務の普及などに伴う住環境の見直しニーズの高まりが、持家や分譲の押し上げ要因に。もっとも、建築用木材の供給不足や価格高騰が住宅投資の下押し要因となることから、回復のペースは緩やかにとどまる見通し。</p>			
<p>◆<b>8月 住宅着工戸数</b></p> <p>5,406戸 前年比+22.5%(4か月連続の増加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持家:1,620戸 前年比+9.9%(5か月連続の増加)</li> <li>貸家:1,616戸 前年比+20.9%(7か月連続の増加)</li> <li>分譲:2,166戸 前年比+52.1%(2か月連続の増加)</li> </ul>		<p style="text-align: center;"><b>図表5 新設住宅着工戸数&lt;前年比&gt;</b></p> <p style="text-align: center;">(資料)国土交通省「住宅着工統計」</p>	

### 3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	足踏み	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	☁
<p><b>《現状》</b></p> <p>○企業の生産活動は、足踏み。</p> <p>○8月の鉱工業生産指数は、前年比+4.7%と6か月連続の上昇(図表6)。業種別にみると、生産用機械(同+38.6%)や鉄鋼(同+14.0%)が上昇。もっとも、全体の水準はコロナ前を大幅に下回る状況。半導体などの部品供給制約が続く輸送機械の生産水準は、2019年同月の4分の3程度に。</p> <p><b>《見通し》</b></p> <p>○トヨタ自動車の県内工場での生産調整が続くなか、輸送機械は弱い動きが続く見込み。もっとも、11月以降は自動車部品の供給状況の改善が見込まれるほか、設備投資需要の拡大を受けた生産用機械などの持ち直しが続くとみられることから、2022年入り後にかけては再び増産基調に復帰する見込み。</p>			
<p><b>◆8月 鉱工業生産</b></p> <p>前年比+4.7%(6か月連続の上昇)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送機械: 前年比▲7.6%(6か月ぶりの減少)</li> <li>・鉄鋼: 前年比+14.0%(10か月連続の上昇)</li> <li>・生産用機械: 前年比+38.6%(6か月連続の上昇)</li> <li>・電気機械: 前年比+10.8%(7か月連続の上昇)</li> </ul>		<p><b>図表6 鉱工業生産指数&lt;前年比&gt;</b></p>	
		<p>(資料)愛知県県民生活部統計課「愛知県鉱工業指数」 (年/月)</p>	

企業倒産	小康状態	基調判断の前月との比較	⇨
		水準評価	☁
<p><b>《現状》</b></p> <p>○企業倒産は、小康状態。</p> <p>○9月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、倒産件数は38件(前年差±0件)と前年同月から横ばい。負債総額は27億円(同+12億円)と4か月ぶりに増加したものの、低水準での推移が持続(図表7)。製造業を中心に企業業績の持ち直しがみられるほか、国や自治体、金融機関の金融支援策による資金繰りの改善が倒産を抑制。</p> <p><b>《見通し》</b></p> <p>○先行きは、製造業を中心とした企業業績の改善が倒産件数の抑制要因となる一方、過剰債務による返済負担の増加が懸念材料に。緊急避難的な赤字補填策から経営再建策への金融支援策の転換も進むなか、業績改善が遅れている企業を中心に倒産が増加する可能性も。</p>			
<p><b>◆9月 企業倒産</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒産件数: 38件 前年差±0件(横這い)</li> <li>・負債総額: 27億円 前年差+12億円(4か月ぶりの増加)</li> </ul>		<p><b>図表7 倒産件数・負債総額&lt;前年差&gt;</b></p>	
		<p>(資料)㈱東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」 (年/月) (注)負債総額1,000万円以上</p>	

#### 4. 個別部門の動向:海外部門

<b>輸出</b>	<b>回復が鈍化</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	↘
		<b>水準評価</b>	☁
<p>◀<b>現状</b>▶</p> <p>○輸出は、回復が鈍化。</p> <p>○9月の名古屋港通関輸出額は、前年比▲1.2%と7か月ぶりの減少(図表8)。仕向地別にみると、中国を除くアジア向け(同+18.1%)や中国向け(同+9.4%)、米国向け(同+2.8%)が増加したものの、西欧向け(同▲18.4%)や中東向け(同▲34.8%)の減少が全体を下押し。品目別にみると、金属加工機械(同+74.9%)や鉄鋼(同+87.3%)が増加した一方、自動車(同▲44.5%)が大幅に減少。</p> <p>◀<b>見通し</b>▶</p> <p>○部品不足により10月もトヨタ自動車が県内工場での生産調整を続けるなか、当面、自動車の供給制約が輸出の下押し要因に。もともと、11月以降は部品供給状況の改善が見込まれており、自動車生産の回復に伴い輸出は再び増加基調に復帰する見通し。</p>			
<p>◆<b>9月 名古屋港通関輸出額</b></p> <p>9,247億円 前年比▲1.2%(7か月ぶりの減少)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国: 前年比+2.8%(7か月連続の増加)</li> <li>・西欧: 前年比▲18.4%(7か月ぶりの減少)</li> </ul>		<p><b>図表8 名古屋港通関輸出額&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)名古屋税関「管内貿易概況」</p>	

#### 5. 個別部門の動向:公共部門

<b>公共投資</b>	<b>持ち直しの動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	→
		<b>水準評価</b>	☁
<p>◀<b>現状</b>▶</p> <p>○公共投資は、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○9月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比▲13.2%と2か月ぶりの減少。請負金額は同▲20.0%と4か月ぶりの減少(図表9)。請負金額を発注者別にみると、都市再生機構などの独立行政法人(同+12.5%)が増加したものの、国(同▲63.1%)や県(同▲0.8%)、市町村(同▲16.7%)がそれぞれ減少。</p> <p>◀<b>見通し</b>▶</p> <p>○リニア中央新幹線開業に向けた名古屋駅周辺の交通施設の整備や、名古屋駅へのアクセス向上を目的とした新洲崎JCTへの出入り口設置、2022年開業予定のジブリパーク整備などの大型案件が見込まれるなか、公共投資は持ち直しの動きが続く見込み。</p>			
<p>◆<b>9月 公共投資</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事請負件数: 912件 前年比▲13.2%(2か月ぶりの減少)</li> <li>・公共工事請負金額: 464億円 前年比▲20.0%(4か月ぶりの減少)</li> </ul>		<p><b>図表9 公共工事請負金額&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱「愛知県内の前払金保証取扱高」(年/月)</p>	

# 県内経済トピックス

(2021年9月)



## 1. 愛知県、矢作川カーボンニュートラルプロジェクトを始動

- 9月1日、愛知県は、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の実現に向け、矢作川流域で推進プロジェクトを開始すると発表。
- 事業は「水循環」をキーワードに矢作川流域全体で展開。構想では、農業用の用水路を利用した小水力発電の導入や、水道の水源から蛇口までを人工知能(AI)やIoTで一括管理する「スマート水道化」などを進める。
- 県は、県内で排出される温室効果ガスを2030年度に2013年度比で26%削減する計画を策定している。目標実現のための具体的プロジェクトを今年6月に募集し、応募のあった7件の中から一般社団法人環境未来フォーラム(東京都)が提案した矢作川でのプロジェクトの事業化を決めた。

## 2. メニコン、本社隣に複合ビルの建設を開始

- 9月16日、メニコンは、名古屋市中区の本社隣にオフィスや芸術ホール、飲食スペースを合わせた複合施設を建設することを発表。地上9階、地下1階建てで、延べ床面積は約5,600㎡となる見込み。
- オフィススペースには、名古屋市内に分散する事業所やグループ会社を集約。より創造的でスピーディーな意思決定ができる環境の構築や、従業員間のコミュニケーション促進を考えた職場環境の整備による生産性の向上を目指す。
- また、地域の芸術や文化の発信拠点として、演劇公演にも使える「メニコンAoiホール(仮称)」を施設内に設置。2012年に設置した「HITOMIホール」とあわせ、一般財団法人メニコン芸術文化記念財団が運営する。

## 3. ANAと愛知大学、「おもてなし」を共同研究

- 9月21日、ANAグループで地域創生事業などを行うANAあきんど(東京都)と愛知大学国際ビジネスセンターが、新しい時代に合った「おもてなし」のあり方をテーマに共同研究を行うと発表。
- 今後のインバウンド需要の回復を見据え、SDGsなどの視点を含めた、時代に即したおもてなしのあり方を分析し、新たな価値創造に取り組む。
- 愛知大学からは学生を中心に20名超が参加。1か月に2回会合を行い、来年3月をめどに中間報告会を開催する見込み。将来的には、研究成果を企業や観光協会などに提供し、ビジネスにつなげることを目指す。

## 景 気 指 標

三十三総研  
2021/10/29

## &lt;愛知県&gt;

(注) ( )内は前年同期(月)比 &lt; &gt;内は季節調整済前期(月)比

	2019年	2020年	2020年	2021年			2021年				
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店販売額	(▲ 1.3)	(▲ 4.3)	(▲ 0.1)	(▲ 1.8)	( 6.7)		( 7.2)	(▲ 3.3)	( 2.3)	(▲ 3.4)	
百貨店	(▲ 3.6)	(▲ 25.1)	(▲ 10.8)	(▲ 11.7)	( 49.0)		( 85.4)	(▲ 9.2)	( 8.1)	(▲ 1.0)	
スーパー	(▲ 0.3)	( 4.9)	( 4.7)	( 2.0)	(▲ 1.7)		(▲ 3.2)	(▲ 1.2)	( 0.2)	(▲ 4.0)	
新車登録・販売台数(台)	253,488	218,537	59,512	67,569	47,069	48,302	14,310	17,365	17,999	15,454	14,849
	(▲ 2.7)	(▲ 13.8)	( 11.2)	( 3.9)	( 26.8)	(▲ 15.0)	( 40.5)	( 10.3)	(▲ 2.0)	( 0.6)	(▲ 35.8)
有効求人倍率(季調済)	1.93	1.21	1.00	1.07	1.16		1.16	1.20	1.26	1.26	
新規求人倍率(季調済)	3.03	2.07	1.98	2.15	2.23		2.40	2.25	2.40	2.30	
名目賃金指数(調査産業計)	( 1.1)	(▲ 1.0)	(▲ 1.3)	(▲ 1.5)	(▲ 0.6)		( 0.7)	(▲ 2.6)	( 1.5)		
実質賃金指数(同)	( 0.9)	(▲ 0.9)	(▲ 0.2)	(▲ 0.9)	(▲ 0.3)		( 1.2)	(▲ 2.5)	( 1.6)		
所定外労働時間(同)	(▲ 2.8)	(▲ 13.6)	(▲ 3.1)	(▲ 7.2)	( 28.5)		( 38.7)	( 25.5)	( 13.1)		
常用雇用指数(同)	( 0.4)	(▲ 0.2)	(▲ 0.6)	(▲ 1.2)	(▲ 0.1)		( 0.1)	(▲ 0.4)	(▲ 0.6)		
新設住宅着工戸数(戸)	66,403	54,951	13,841	12,159	15,239		4,604	5,411	6,234	5,406	
	(▲ 0.9)	(▲ 17.2)	(▲ 17.3)	(▲ 11.8)	( 11.6)		( 29.5)	( 15.0)	( 27.8)	( 22.5)	
鉱工業生産指数	( 2.2)	(▲ 14.6)	( 0.4)	(▲ 2.0)	( 43.7)		( 47.7)	( 55.8)	( 18.7)	( 4.7)	
	-	-	< 11.9>	<▲ 3.7>	< 3.4>		<▲ 7.4>	< 7.5>	<▲ 0.9>	<▲ 9.9>	
企業倒産件数(件)	564	542	120	90	79	96	28	27	37	21	38
(前年同期(月)差)	(▲ 60)	(▲ 22)	(▲ 24)	(▲ 49)	(▲ 35)	(▲ 73)	( 12)	(▲ 18)	(▲ 39)	(▲ 34)	( 0)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	3,364	2,901	740	809	748		245	239	277	164	
	(▲ 3.2)	(▲ 13.8)	(▲ 4.7)	( 18.8)	(▲ 11.8)		(▲ 31.4)	( 2.4)	( 28.8)	(▲ 26.0)	
名古屋港 輸出(億円)	123,068	104,138	31	29,419	32,045	3,043	9,301	11,505	11,623	9,563	9,247
	(▲ 1.4)	(▲ 15.4)	( 0.3)	( 2.6)	( 62.9)	( 22.9)	( 71.6)	( 78.1)	( 50.0)	( 25.1)	(▲ 1.2)
公共工事請負金額(億円)	5,671	5,320	984	841	1,853	1,529	406	684	610	455	464
	( 16.8)	(▲ 6.2)	(▲ 4.2)	(▲ 1.4)	(▲ 4.2)	(▲ 1.8)	(▲ 10.2)	( 15.7)	( 12.0)	( 7.3)	(▲ 20.0)
消費者物価指数・除く生鮮(名古屋市)	( 0.4)	(▲ 0.2)	(▲ 0.8)	(▲ 0.4)	(▲ 0.6)	( 0.0)	(▲ 0.6)	(▲ 0.6)	( 0.0)	( 0.0)	(▲ 0.1)

## &lt;東海3県(愛知・三重・岐阜)&gt;

	2019年	2020年	2020年	2021年			2021年				
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 1.1)	(▲ 2.0)	( 1.4)	(▲ 0.8)	( 4.7)		( 4.7)	(▲ 2.5)	( 1.6)	(▲ 3.6)	
同 (既存店)	(▲ 1.1)	(▲ 3.2)	( 1.1)	(▲ 1.1)	( 4.7)		( 4.9)	(▲ 2.4)	( 2.4)	(▲ 2.7)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,566	75,080	19,493	17,351	20,568		6,143	7,232	8,131	7,355	
	(▲ 0.3)	(▲ 15.2)	(▲ 13.0)	(▲ 8.9)	( 11.9)		( 23.9)	( 16.5)	( 21.3)	( 27.4)	
有効求人倍率(季調済)	1.90	1.24	1.05	1.13	1.20		1.20	1.24	1.29	1.30	
新規求人倍率(季調済)	2.90	2.06	2.04	2.15	2.23		2.38	2.26	2.34	2.33	
鉱工業生産指数	(▲ 2.4)	(▲ 13.5)	( 0.8)	(▲ 1.2)	( 39.7)		( 44.4)	( 47.8)	( 18.7)	( 5.0)	
	-	-	< 10.6>	<▲ 2.1>	< 2.5>		<▲ 12.3>	< 12.7>	<▲ 2.2>	<▲ 10.6>	
企業倒産件数(件)	762	746	172	130	109	148	41	37	52	41	55
(前年同期(月)差)	(▲ 71)	(▲ 16)	(▲ 33)	(▲ 71)	(▲ 54)	(▲ 62)	( 19)	(▲ 20)	(▲ 35)	(▲ 28)	( 1)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,893	71,160	24,940	20,301	22,051	19,440	5,660	8,545	9,409	4,921	5,110
輸出(億円)	168,646	141,831	42,309	39,915	43,300	41,313	12,639	15,591	16,197	12,575	12,541
	(▲ 2.0)	(▲ 15.9)	( 2.6)	( 2.7)	( 67.2)	( 18.9)	( 75.7)	( 86.3)	( 48.1)	( 18.1)	(▲ 4.8)
輸入(億円)	88,753	70,671	17,370	19,614	21,249	21,874	6,979	7,046	6,788	7,655	7,431
	(▲ 3.9)	(▲ 20.4)	(▲ 20.0)	(▲ 2.4)	( 25.6)	( 34.3)	( 36.9)	( 44.5)	( 26.1)	( 45.4)	( 31.8)

:各指標における直近の数値